

2024年 3月14日

2023年度 ALL DOSHISHA 共修プログラム
実施プロジェクト成果報告書

プロジェクトタイトル
Be confident

プロジェクトメンバー			
役職	氏名	学科専攻	学年
リーダー	Wang Xinlong	情報工学専攻	M1
	猪俣 舞帆	機能分子・生命化学科	B1
	小林 楓子	化学システム創成工学科	B1
	中本 明里	情報システムデザイン学科	B1
	太田 菜月	機能分子・生命化学科	B1

支出経費			
支出項目	単価 (円)	数量	小計 (円)
デザイン制作費	250,000	1 式	250,000
レスポンス展開	50,000	1 式	50,000
HTML コーディング	150,000	1 式	150,000
レスポンス設定	50,000	1 式	50,000
進行管理費	100,000	1 式	100,000
		小計	600,000
		消費税(10%)	60,000
		合計	660,000

プロジェクトの目的と狙い
海外への留学を視野に入れている学生の中には、食事や人間関係の距離感やマナーなど様々な日本と海外の文化の違いを不安に思い、行動に移すことを躊躇う学生がいる。そのため、今回のプロジェクトでは、同志社の理工学部の学生をターゲットにし、留学における様々な疑問や不安を解決し、自信をもって留学に行くことができるようにすることが目的である。

プロジェクトの実施内容（1 ページ以上）

- 取り組んだ実施内容を時系列にかつ具体的に記入してください。
- 誰がどのような役割で何をしたかも分かるように記入してください。
- 適宜、取組状況の画像データを貼付いただいても結構です（様式の半分以内の分量とします）。

初めに、大平印刷株式会社（以下、大平印刷）のワークショップにて同志社大学の強みや弱みを外部環境と内部環境に分けて考え、SWOT 分析を用いてメンバー内で話し合った。この話し合いを踏まえ数回のワークショップをする中で、我々がどのような方法で課題を解決するかコンセプトを固め、2つの企画書の骨組みを作成した。2つのうちどちらがより効果的か、実現可能かを話し合ったところ、LP (Landing Page)を制作するということが合意し企画書を完成させた。LP とはホームページの中で一番初めにアクセスするページのことである。この LP の特性を生かし、訪問者がそのページにアクセスするだけで留学に関する疑問を解決したり、留学関連のサイトに飛べるようにすることを可能にしようと考えた。

LP を作るにあたり、初めに大平印刷に必要な工程を教えていただいた。流れとしては①ターゲットと狙いを明確にする②テキストで原稿をまとめる③画像セレクト④ワイヤーフレーム作成⑤画像準備⑥大平印刷に入稿⑦詳細調整⑧デザインチェック、文字校正⑨コーディングデータ納品となる。これらを遅れが生じないで進行できるようスケジュールを作成した。その後、具体的にどのような内容載せるか意見を出し合い、オリジナルコンテンツとして留学時に実際にあった問題や解決策を Q&A でまとめたコーナーを作成し、Q&A に載せきれない部分をその補助として6つのリンク（同志社の留学制度・体験記・奨学金・会話フレーズ・防犯・文化について）を集め、リンク集のコーナーを加えることにした。

Q&A のコーナーを作成するために、まず、留学したい学生がどのような疑問や不安を持っているのかを、意見を出し合ったりインターネットの情報を参考にしたりしてリストアップした。そして、留学経験者の理工学部の学生やグローバルコミュニケーション学部の学生、外国人留学生に事務室を通じて協力を依頼し、リストアップした課題についてのアンケートに回答をいただいた。アンケートの質問内容は、留学の際に障壁となったもの、人間関係、留学先の生活習慣、食文化で困ったこととそれらの解決方法、また、留学して良かったことである。これらの内容をテキスト原稿にまとめ、一度大平印刷に提出し、リンク先の情報の期限や掲載元についての注意点や、文章のトーンやマナーについてのフィードバックをいただいた。そしてその後、LP の構成案であるワイヤーフレームの作成に取り掛かった。作成途中にもう一度大平印刷よりフィードバックを受けさらに構成を練った。その際に、掲載する文章をできるだけ短くまとめ、画像を多く使うことよってひと目でどのようなことが載っているのかを明確にし、また、我々の意見も載せることでオリジナリティが出るよう工夫した。この段階で、構成をまとめるにあたって意見が思うようにまとまらず、当初の予定を変更し最終的に年が明けてから大平印刷へテキスト原稿・ワイヤーフレーム・使用する画像の3点を入稿することとなった。入稿後、リンク先のページが掲載不可となったため、文化の項目を削除し、会話フレーズはオリジナルの PDF ファイルを作成することとなった。

PDF ファイルの作成にあたっては、本やウェブサイトを参考文献とした。その後、大平

印刷から届いた LP のデモを確認した。伝えたい内容が分かりやすく、また、留学を迷っている学生に見たいと思ってもらえる LP にするために細かな文や先述の使用不可になったリンクについての修正、フォントの大きさ変更、配置変更など、変更を依頼した。

プロジェクトの成果（1 ページ以上）

- 当初計画していた達成目標と比較して成果を記入してください。
- プロジェクト開始時からどのような能力が向上したかを記入してください。
 - ・グローバルマインドの3要素（①グローバルな視野、②多様性の尊重、③異文化理解）
 - ・社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素
 - ①前に踏み出す力（主体性／働きかけ力／実行力）
 - ②考え抜く力（課題発見力／計画力／創造力）
 - ③チームで働く力（発信力／傾聴力／柔軟性／状況把握力／規律性／ストレスコントロール力）
- 当初計画していた目標に至らなかった場合は、①何が実施・実現できなかったのか。②その要因は何か。③考える解決策 を具体的に記入してください。

・当初計画していた達成目標と比較した成果

達成目標に関して、留学を視野に入れている学生に対して留学への不安をなくすという目的は作成した LP を今後、学生に見てもらうことで達成することができるだろうと考える。目的達成のためには、留学を迷っている学生に LP を閲覧するという行動を起こしてもらえるよう対策を取る必要がある。当初計画していたものとしては、紹介のための冊子の作成など物理的なものを想像していた。私たちグループメンバー自身も LP という存在を知ってはいたものの、そこまで深い理解をしていなかったため視野に入れていなかった。しかし、LP 作成の方向に切り替えたことによりインターネットを介すだけで情報を得ることができ、冊子作成よりも今の時代にあったものにできたと考えている。

当初、2月中旬に納品予定だったが、3月後半納品となってしまった。チームで決めた目標に向かって、細かくスケジュールを決め、予定通りに進むようにミーティングを行う予定だったが、次回ミーティングの日程をみんなが揃っている場で決めなかったため、チームで集まらない期間が長くなってしまった。このことを受け、週に1回決まった曜日、時間に集まることにした。ミーティングの曜日、時間を固定していなかったときと比べて少しはスムーズに作業を進めることができるようになったが、授業の関係で予定が合わなかったり、余裕を多めにもってスケジュールを決めなかったことにより、チーム内で意思疎通がうまく取れず、当初の予定より遅れることが多々あった。また、役割分担がうまくできず、1人に負担がかかってしまった。Q&A 班とアンケート班に分かれて作業した際、2つの班で進捗状況を共有しておらず、連携が取れていないということもあった。これらをふまえた解決策は、1人1人が無理のない範囲で役割を持ち、チームで協力して作業を進めること、少なくとも週に1回は、全員が顔を合わせ、進捗状況を共有したり、意思疎通をはかることである。

・向上した力

考え抜く力（課題発見力）、異文化理解、状況把握能力が向上した。

今回の ALL DOSHISHA 共修プログラムを進めていく中で、特に、初めの課題設定には苦労したと感じている。漠然とした問題が多い中でどこの層にアプローチをかけるのかなど、進めていく中で、対象範囲が広すぎる又は狭すぎるなどで変更することも多々あった。その為、成果物を作り上げていく中で何を最も重大な課題として取り上げていて、解決したいのかを軸として考える必要性を理解し、身に付けることができたと感じている。また、留学した先輩にアンケートを行い、LP を作成する上でこれまで知らなかった世界

の文化や習慣を知ることができた。調べるだけでは知ることのできない、留学先での先輩方の生の声を聴くことができたとても良い機会であった。また、留学生と共に活動することで、留学生の母国の文化を教えてもらったり、日本の文化について教えたりと異文化交流ができた。さらに、チームの状況や進捗状況を考えて、今、自分にできることは何かを考える機会がたくさんあった。そのため、周りの状況を見て判断する力がついたと考える。

今後期待できる成果の波及効果（1 ページ以内）

- 今後、成果物を大学がどのように活用することが望ましいかを記載してください。
- 成果物をさらに波及するための考える取り組みを記載してください。

私たちが今回作成した LP に関して、対象は海外への留学を視野に入れている学生にとって、留学における不安など障壁を取り払う役割を果たしてくれると考える。そのため、大学の活用方法としては入学時直後や留学の相談に来た学生に対して、リンクの紹介を行い、いつでも見られるように学校ホームページに載せるなどが有効であると考えている。今回、紙媒体ではなく LP という形で作成したことにより、インターネットを経由すればだれでもアクセスすることができる為、非常に利用しやすいといえるだろう。ALL DOSHISHA 共修プログラムの宣伝にも効果的だと考える。

しかし、始めに認知されていなければ使用されず埋もれてしまうことから、成果物をさらに普及させるためには認知してもらえらるための取り組みが必要である。そこで、SNS での広報などが有効であると考えている。成果物をさらに普及させるには、生徒全員に情報を流すことのできるメーリングリストなどにより発信することも学生に知ってもらいきっかけとなるといえる。